

土器コミュニティ

防災力を高める

土器コミュニティでは、電柱などに海拔表示板を設置したり、防災マップの作成を進めたりと、地域の人が普段から防災に関心を持ち、意識を高める取り組みに力を入れています。

潜在的な被害のおそれ

一級河川土器川を東西に挟む土器町は、大雨や台風の際に土器川の堤防が決壊して被害が出る可能性があります。ここ最近では大きな被害は出ていませんが、昔は大雨のたびに土器川流域で被害があったようです。地盤が低いところが多くあるため、日頃から災害



約100か所に海拔表示板を設置



海拔表示板設置箇所地図

海拔表示板の設置が好評

平成23年に発生した東日本大震災の津波被害を受けて、コミュニティの役員会で自分たちの地域は大丈夫か改めて話しあいました。そして、土器町東は海拔が低いところが多くあり、高さがどのぐらいか知ってもらうことは住民の防災意識の啓発にもなるため、海拔表示板を設置することに決定。平成26年から3年間で、地域の自治会館や電柱など約100か所に同板を

に備えておく必要がある地域です。

防災マップを地域の人で作成

設置しました。それが地域の人から好評で、ほかの地域からも参考にされ広がりがつつあります。防災の第一歩として結果を残しました。



地区内を歩いて作った防災マップ

土器コミュニティでは、独自の防災マップを作成中です。地域の人が集まり、改めて自分たちが住んでいる地域を歩いた上で、地図に危険箇所や安全箇所、津波の際に波がどこまでくるかの予測などをわかりやすく色分けして示しました。マップは完成に近づいています。今後は

防災マップの改良を重ね、もっと防災に関わる人を増やすことを目標に、土器コミュニティの取り組みは続きます。

地域の新たな担い手



土器コミュニティ 総務部会長 西岡 和美さん

皆さんの協力のおかげで、海拔表示板を約100か所に設置することができました。電柱への設置が中心だったため、特に四国電力株式会社には大変お世話になりました。また周辺の地域ではあまり設置されていなかった時期だったため、いろいろと苦労しましたが、地域の人から好評で、他の地域からも参考にされるまでになり、やってよかったです。今後は、コミュニティや防災の活動の担い手を増やしたいです。定年退職した人だけでなく、自治会に入っていない人や若い人をいかに巻き込むかが課題です。海拔表示板は、子どもの通学路に設置すれば、防災教育にもなるだろうというのも設置した理由の一つです。子どもから大人までみんなの防災意識を高めるとともに、活動する人を増やしていきたいです。